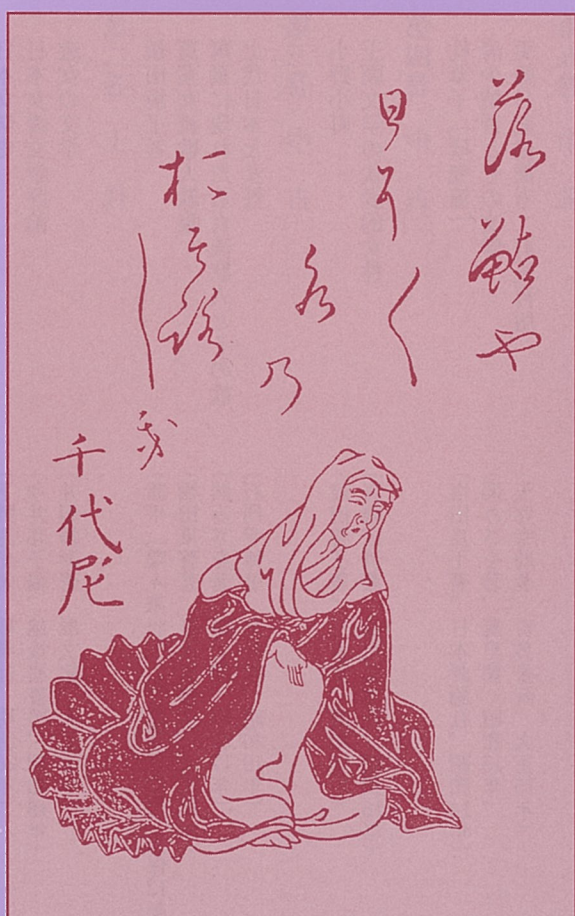


上代から近世までの「女性文学」について研究書を中心に時代毎に収録。

日本女性文学研究叢書 古典篇

全七巻／日本女子大学文学部日本文学科 編・解説



クレス出版

『日本女性文学研究叢書』刊行にあたって

日本の古典文学研究の長い歴史において、広く女性を描いた文学作品を対象とする「女性文学」という分野は、女性歌人や女性作家の作品を対象とする「女流文学」を含みつつ、その視点を異にする。両者の相違を明確に打ち出したのは日本女子大学前学長・名誉教授後藤祥子氏を中心となつて編纂著述した『はじめて学ぶ日本女性文学史 古典編』（ミネルヴァ書房 二〇〇三年一月刊）であろう。そこには、「女性文学」が対象とする作品群が時代順に整理されていて、「女性文学」のあり方を概観できる。そうした「女性文学」に対して、古典文学としてではなく、「女性文学」という視点からの研究を意識したのは明治期からと考えられ、明治二六年刊行の下野遠光著『日本女学史』（敬業社刊）は、日本女性文学研究の嚆矢と自負している。時代毎に韻文・散文の変遷、文学の有り様、歌例・文例を示し、上古における仏教の伝来、中古における法制学制及び修史を述べて、時代の特性と文学との関連に注意を払っている。その内容は現在の研究水準とはかなり異なるものの、女性文学研究の指標を示していると考えられ、史的な意味を持つといえる。本企画は巻頭に『日本女学史』を置き、『日本女性文学研究叢書』の名称のもと、上代から近世までの「女性文学」について研究書を中心に時代毎に掲載して、研究史を概観できるようにしたものである。

古典文学研究は戦後飛躍的な発展を見せていて、特に女性の活躍が目立つ平安朝文学をはじめとして、物語文学・日記文学といった同じ領域毎に、或いは作者毎に研究書を纏めた企画もなされている。しかしながら、今日まで、上代から近世までの女性文学研究書を研究史として概観した叢書は見られない。今回、わたくしどもは古典文学研究を対象を絞り、明治期から昭和三〇年代までに刊行された女性文学研究書を中心に掲載したが、明治期以降の女性文学研究書の中には繰り返し再版されて、目にする機会のある書籍も多い。今回はそうした書籍については掲載を遠慮し、できるだけ、手に入りにくい研究書を中心とした。女性文学研究の出発点と基盤となる研究内容を再確認するという意図によるものである。

以下、第一巻は総論、第二巻上代、第三・四巻は中古、第五巻は中世、第六・七巻は近世として、時代毎に掲載している。

日本女子大学文学部日本文学科

第五章 近世時代

徳川時代

散文の變遷

足利驕奢將軍の建立したる、金銀の閣寺、燦然として、光明を放つ頃は、世の中は、いやまゝに衰へゆきて、人の心づ、暗くなりける。然るに、文學界には、謠曲といふもの創まりて、人の所謂、一種の銀世界を造りぬ。足利の末、及織、豊、二氏の代は、武士雲の如く集り、龍の如く起りて、つきぬふ山城はさらなり、豊葦原の瑞穂の實りさへ、いや吹きに吹ける、武風の爲に萎みければ、詞花言葉は、げに冬枯れにぐなりける。かかるに、徳川氏に至りては、政治上の改新ありたると共に、文學界も、其趣を一變して、文人雲の如く集り、龍の如く起り、あをによし奈良の都の文華さへ、復春風を帯びて、たのしくぐなりける。

日本女性文学研究叢書 古典篇 全七巻

- 第一巻 総論**
日本女学史
日本女流文学評論
遊女の文学
- 第二巻 上代**
額田鏡王考
萬葉女流歌人歌集
萬葉に現れたる女流歌人とその歌
上代日本と女性
- 第三巻 中古(一)**
小野小町
王朝文学の代表的な女性
- 第四巻 中古(二)**
枕草子「研究篇」
清少納言とその文学
更級日記錯簡考 訂正再版
- 第五巻 中世**
阿仏尼
建礼門院右京大夫・太皇太后宮小侍従
永福門院
十六夜日記「解題」
- 第六巻 近世(一)**
俳流の女神
梅の春考・北州考
玉淵女史と其父
紅蘭未亡人の書簡
関秀俳家全集
- 第七巻 近世(二)**
徳川時代の女流散文家
徳川時代の女流歌人
果門三才女集評釈
太田垣蓮月集評釈
野村望東尼集評釈
高島式部全歌集
雑誌「短冊」より
- (下野遠光著、敬業社、明治26年)
(今井邦子編、越後屋書房、昭和18年)
(井淵柳影著、辰文館、大正2年)
(諸平「嚶々筆語」、和泉屋吉兵衛、天保13年)
(橋田東聲著、紅玉堂書店、大正14年)
(関みさを著、博文館、昭和17年)
(石門寺博著、文松堂、昭和19年)
(前田善子著、三省堂、昭和18年)
(真鍋広済著、湯川弘文社、昭和16年)
(塩田良平著、日本評論社、昭和14年)
(関みさを著、萬里閣、昭和15年)
(玉井幸助著、育英書院、大正15年)
(富士川游著、厚徳書院、昭和12年)
(富倉徳次郎著、三省堂、昭和17年)
(佐々木治綱著、生活社、昭和18年)
(谷山 茂著、河原書店、昭和24年)
(小林豊次郎著、文学同志会、明治36年)
(忍頂寺務著、春陽堂、昭和5年)
(島田筑波著、政教社、大正4年)
(忍頂寺務著、上方郷土研究会、昭和15年)
(勝峰晋風著、聚英閣、大正11年)
(萩原蘿月著、全国高等女学校長協会、昭和13年)
(森 敬三者、全国高等女学校長協会、昭和13年)
(藤川忠治著、改造社、昭和7年)
(水町京子著、改造社、昭和7年)
(三宅竜子著、改造社、昭和7年)
(築瀬一雄著、私家版、昭和33年)
(森本謙郎ほか著、文行堂、大正13年〜昭和3年)

解題

菊の道

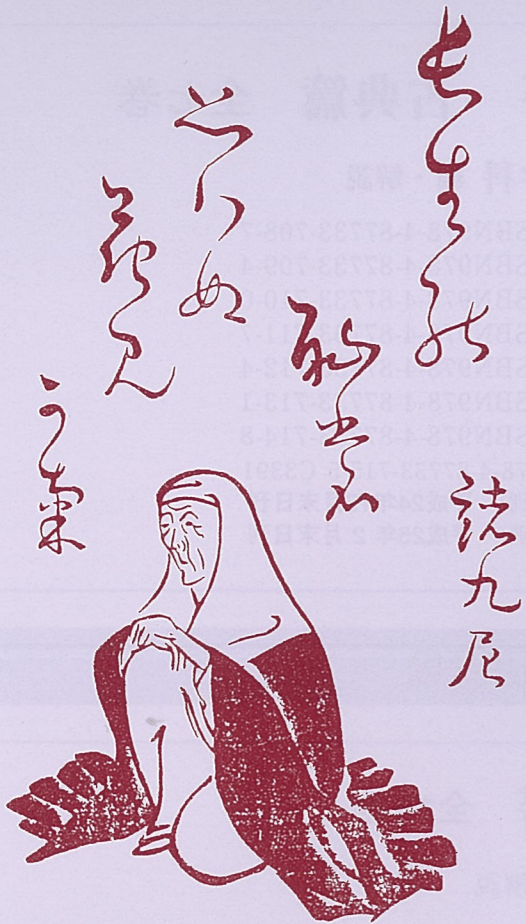
婦人の俳書の嚆矢である。撰者紫白女は豊後國日田の人である。元禄十三年京の井筒屋から出版された。芭蕉の没後七年西陲の一地方で婦人の手で蕉門の句集が編集されたことは、蕉風俳諧の盛行を語るもので俳諧書史學の上に特筆の價値がある。編纂に就ては其の師事した四方郎朱拙の助力を仰いだので、板下の文字も朱拙の書體である。上巻に俳句、下巻に連句を収めて、其の孰れも蕉門知名の作家揃ひなので大に参考になる。日田には双白堂野紅の妻で、長野りん女といふ智月や園女も技術の伯仲する女俳人が任んで居て、紫白も自然その感化を受けて俳諧に志したらしく、遠く芭蕉の墓にも参詣してゐる。直弟ではないが没後遺風に違つて、所謂蕉門三世の血脈を引いた一人である。(遠藤夢花氏藏)

紫白撰



第六巻「関秀俳家全集」

第一巻「日本女学史」



菊の塵

園女撰

解題

九

日本女性文学研究叢書 古典篇 全七巻

日本女子大学文学部日本文学科 編・解説

第一巻	総論	定価20,000円(税別)	ISBN978-4-87733-708-7
第二巻	上代	定価14,000円(税別)	ISBN978-4-87733-709-4
第三巻	中古(一)	定価16,000円(税別)	ISBN978-4-87733-710-0
第四巻	中古(二)	定価18,000円(税別)	ISBN978-4-87733-711-7
第五巻	中世	定価17,000円(税別)	ISBN978-4-87733-712-4
第六巻	近世(一)	定価15,000円(税別)	ISBN978-4-87733-713-1
第七巻	近世(二)	定価14,000円(税別)	ISBN978-4-87733-714-8

A5判/上製函入 揃定価114,000円(税別) ISBN978-4-87733-715-5 C3391

■第1回配本 第一巻～第四巻 揃定価68,000円(税別) 平成24年12月末日刊
■第2回配本 第五巻～第七巻 揃定価46,000円(税別) 平成25年2月末日刊

●クレス出版好評既刊書●

日記文学研究叢書 全15巻

津本 信博 編・解説

- 第1巻 土佐日記
標注土佐日記(久留間瑛三編)、訂正増補土佐日記考証(鈴木弘恭著)、口訳土佐日記(佐佐木弘綱著)、土佐日記(山田孝雄著)
- 第2巻 蜻蛉日記
道綱の母(喜多義勇著)、蜻蛉・紫式部・和泉式部日記(山岸徳平・村上治著)
- 第3巻 和泉式部日記
校定和泉式部日記新釈(竹野長次著)、和泉式部日記詳解(小室由三・田中栄三郎著)、和泉式部日記(木枝増一著)
- 第4巻 紫式部日記 一
源氏物語忍草 附紫家七論(関根正直校訂)、紫式部日記講義(長田致孝著)、評釈紫女手簡(木村架空著)
- 第5巻 紫式部日記 二
紫式部日記講義(三木五百枝構述)、新訳紫式部日記・和泉式部日記(与謝野晶子)
- 第6巻 紫式部日記 三
紫式部日記評釈(永野忠一著)、紫式部日記新釈(岡田稔著)
- 第7巻 紫式部日記 四
紫式部 まむらさきの巻(中本たか子著)、評註紫式部日記全釈(阿部秋生著)
- 第8巻 紫式部日記 五
紫式部日記の新展望(益田勝実著)、論叢紫式部日記(池田亀鑑ほか著)、
紫式部日記人物考(岩野祐吉著)、紫式部日記(松村博司著)
- 第9巻 更級日記 一
校註更級日記(佐佐木信綱註)、更級日記講義(大塚彦太郎著)、口訳更級日記(佐佐木弘綱著)
- 第10巻 更級日記 二
更級日記講義(宮田和一郎著)、更級日記精講 研究と評釈(宮田和一郎著)
- 第11巻 更級日記 三
口訳対照更級日記新釈(西下経一著)、更級日記(関みさを著)、更級日記の新しい解釈(佐伯梅友著)
- 第12巻 成尋母日記
成尋阿闍梨母集・参天台五台山記の研究(島津草子著)
- 第13巻 王朝日記 ほか
王朝三日記新釈(宮田和一郎著)、大斎院前の御集の研究(秋葉安太郎ほか著)
- 第14巻 十六夜日記
十六夜日記残月抄補注(小山田清注)、標註十六夜日記読本(佐佐木信綱註)、
新訳十六夜日記精解(吉川秀雄著)、新訳十六夜日記(竹野長次著)、十六夜日記全釈(小室由三著)
- 第15巻 総論
自照文学史(池田亀鑑著)、日記に就いて(和田英松著)、日記文学と女性(久松潜一著)、
日記紀行文学の本質(池田亀鑑著)、平安朝に於ける日記の研究(和田英松著)、
王朝時代の日記文学(池田亀鑑著)、平安朝の日記紀行(西下経一著)、日記と和歌(玉井幸助著)、
平安朝の女流日記文学(吉沢義則著)、日記文学と紀行文学(池田亀鑑著)、平安朝の日記文学(土居光知著)、
平安朝の日記について(田山信郎著)、日記・紀行・随筆(玉井幸助著) 日記・随筆(佐山濟著)、
日記文学の意味(斎藤清衛著)、日記文学(『国文学 解釈と鑑賞』)、古代の日記・紀行文学(今井卓爾著)
- 揃定価177,000円 ISBN4-87733-348-7、350-8

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メロナー日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版

●書店名